

ジャーマンアイリスの育て方

ジャーマンアイリスは、約200種あるアイリスのうち、地植えで楽しめることの多い品種です。「虹の花:レインボーフラワー」といわれ、白や赤、黄、紫、ピンクなど多彩な花色で私たちを楽しませてくれます。とても丈夫な性質で、育てやすいことも魅力の1つです。

■ ジャーマンアイリスは、乾燥を好むため水やりは控えめで、よく日の当たる場所で育ててください。

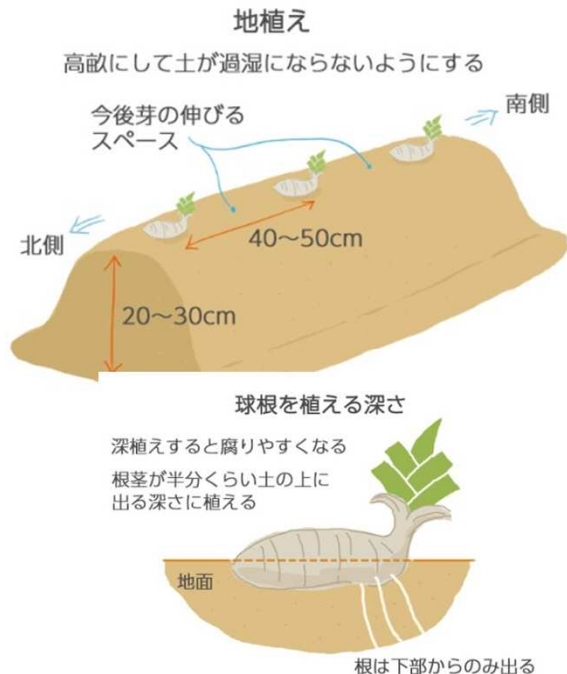
■ また、高温多湿の環境だと、根や茎が腐って枯れてしまうので、水のあげすぎにも注意が必要です。



■ ジャーマンアイリスは、球根と苗から育てることができます。いずれの場合も、9~10月が植え付けの適期です。球根を深く植えてしまうと腐ってしまうので、浅く植え付けてください。

地植え

日当たりと水はけがよく、乾きやすい土地を選びます。庭の土は事前に掘り起こし、腐葉土を混ぜておきます。中性~アルカリ性の土を好むので、土が酸性に傾いている場合は、苦土石灰を少量混ぜてください。土がきたら、植え付け場所を高く盛って高畝(たかうね)を作り、球根を横向きにして、背中が土から出るように浅く植え付けます。複数の球根を植えるなら、3つの球根で三角形を作り、それぞれの間隔が40~50cm空くようにするといいです。



鉢植え

7号以上の深鉢に球根を1つ植え付けます。水はけがよく、有機質が豊富な土を好むので、赤玉土(小粒)5:腐葉土5の配合土に、苦土石灰を少量混ぜたものを使いましょう。鉢の底に、ゴロ土や軽石を敷き、用土を入れたら、球根を横向きに浅く植えてください。根がはるまでは倒れやすいので、支柱を添えて固定しましょう。

水やり

ジャーマンアイリスは、乾燥した環境を好みます。鉢植えの場合、春は土の表面が乾いたら水をたっぷり与えます。それ以外の季節は、土が乾いてしばらくしてから水を与えるようにしましょう。地植えの場合は、特に水やりの必要はありません。

肥料

地植えの場合は、3月と9~10月に1回ずつ、ゆっくり効くタイプの化成肥料を株の周りに施します。鉢植えは、10~12月と2~3月に、月に1度、株の周りに置くタイプの肥料を施しましょう。軟腐病にかかってしまう恐れがあるので、葉を茂らせる窒素の多い肥料は避け、花を大きくリン酸が多く含まれる肥料が好ましいです。

剪定

枯れた葉や花を見つけたら取り除きます。こまめに取り除くことで、花の見栄えがよくなり、病気を予防することができます。葉が混みあっているところや花の咲かない小さな芽、余分な芽は取り除いて、風通しをよくしてください。

株分け

ジャーマンアイリスは植えばなしでもよく育ちますが、同じ場所で長期間育てると、芽数が増えて花付きが悪くなり、病気にもなりやすくなります。そのため、定期的に植え替えをして、株を元気にしてあげます。

地植えの場合は、株分けもかねて3~4年に1回、9~10月に植え替えましょう。鉢植えの場合は、土の劣化と根詰まりを起こすため、毎年新しい用土に植え替えます。

9~10月の植え替えと同時期に、株分けで数を増やします。

清潔なナイフやはさみで、1つの株に芽が1~3個付くように、根株を切り分けます。

分けた株は、葉を半分くらい切り落とし、余分な水分が蒸発するのを防いでください。

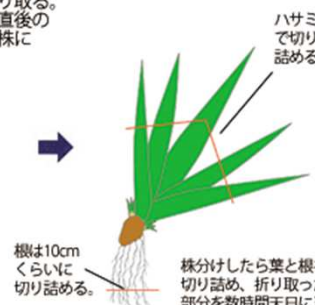
それぞれの球根を、土から背中が出るくらい浅く植え付けて、通常通り栽培しましょう。

株分け

株を鍬やスコップで掘り取り、扇状に伸びた子株のくびれた部分を手で折り取る。親株についている小さな子株や開花直後の花茎の横芽は無理に株分けせず、親株につけたまま種株にする。



株分け後の子株



苗完成

